

# うらぼろスタイルのご紹介

vol. 4

これまで3回の連載で、うらぼろスタイルのはじまりと、学校が中心となり実施している「地域への愛着を育む事業」、そんな学校現場で子どもたちが考えた町に対する要望や提案を、大人たちが実現させようと立ち上げたプロジェクト「子どもの想い実現事業」、町内の小学校と農林漁業者さんが協働で民泊体験学習に取り組む「農村つながり体験事業」についてご紹介してきました。

今回ご紹介するのは「若者のしごと創造事業」という取り組みです。



小中学校での、浦幌の魅力を再発見する学習や、民泊体験学習、そして、子ども達の想いに真剣に向き合う大人達の姿を見てきて、子ども達の気持ちにも変化が生まれてきました。

うらぼろスタイル教育を経験してきた世代の成人式での声や、子ども達を対象に行ったアンケート結果からは、「浦幌が好きだ」と考えている子どもや若者が以前に比べて大幅に増えてきていることが分かりました。しかし、一方で次の課題も見えてきました。

「浦幌は好きで将来も住み続けたいけれど、仕事がないから町外に就職して住むしかない」

という声もまた多く聞かれました。



た。

サラリーマンや自営業ではない家庭の子ども達・若者達が、浦幌に帰ってくるには働く場所を探さなければなりません。もちろん、町内に雇用が全くないわけではありません。社会にとって大切で尊い職業であっても、人手不足が生じている場合もあります。しかし、子ども達・若者達が目標としてきた職業や、夢を実現することができる職業、学んできたことを生かそうと思える職業と考えた時、どうしても多様性や選択肢の面では、都会に比べると少ないという現実に向き合います。

できることなら浦幌に住み続けたい、帰ってきたいという子ども達・若者達の主体的な想いは町の未来にとって、とても貴重なものです。

この想いに応えるために、地域の大人達が「若者の雇用創造検討会議」（以下、検討会議）を組織しました。メンバーは、商工業・農業・林業・漁業に従事する方、商工会・農協・森林組合・漁協の職員さんなどが中心です。

子ども達・若者達が魅力的に感じる仕事の間を生み出すことを目指していましたが、今いる大人達だけで、多くの子ども達・若者達を雇用できる事業を生み出し続けることは現実的ではありません。

そこでは、「浦幌にある資源を活用して今までにない新しい仕事（起業・創業モデル）を生み出す」ことを若者自身に挑戦してもらうことにより、

「浦幌でも挑戦できるんだ！」「仕事があれば自分たちで創る選択肢もあるんだ！」

というように気付いてもいつか、そして、そんな若者の挑戦をサポート





若者の雇用創造検討会議の様子

トする体制を整えていくことを目指しました。

そこで検討会議では、町内にある地域資源の可能性や潜在能力の整理、町民の声の参集、それらを踏まえた浦幌の優位性などの分析をすることで、企業・創業モデルの検討を行い5つのプランを作成しました。

この検討会議と、そこで生み出された5つのプランに基づいて、地域おこし協力隊などが実際に行っている仕事づくりの活動が「若者のしごと創造事業」です。

5つのプランとそれに基づいた活動は次号から1つずつご紹介いたします。ぜひ次号もご覧ください！



## 若者の雇用創造検討会議で作成した5つのプラン

- 【生産】浦幌の産業と町民を繋ぐ雇用創造 - 林業をモデルに
- 【加工・販売】地域連携 6次産業化 - ハマナスプロジェクト
- 【進路指導】子どもが夢を浦幌で実現できる指導体制
- 【サービス】着地型観光の受け入れ
- 【起業・創業】うらほろ起業創業ラボ（拠点）の構築